

整理番号	124	事業名〔地区名〕	交付金事業(河川) 〔南相馬市 二級河川 新田川〕	全体事業費 (百万円)	9,700	採択年度	S28	完成目標年度*	R10 (H40)	担当部(局)課名	土木部 河川整備課
------	-----	----------	------------------------------	----------------	-------	------	-----	---------	--------------	----------	-----------

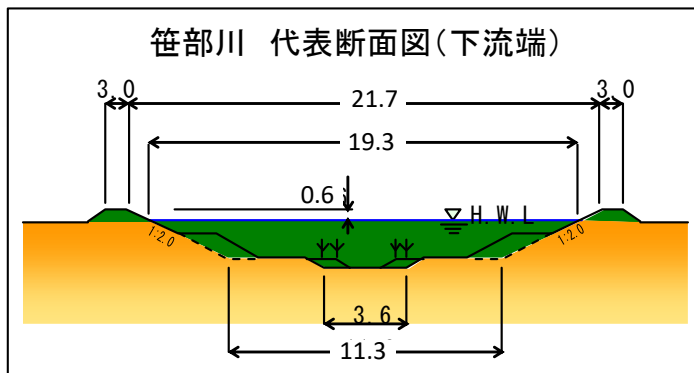
※完成目標年度は、標準的な工程を想定して設定しているが、毎年度の予算は担保されたものではなく、用地取得状況や施工上の条件変化等、不確定な要素があるため、確定したものではない。

評価対象理由	前回評価時(平成26年度)から5年経過で継続中	前回評価時の対応方針	委員会からの提言:事業継続、付帯意見等:なし、県の対応方針:事業継続
--------	-------------------------	------------	------------------------------------

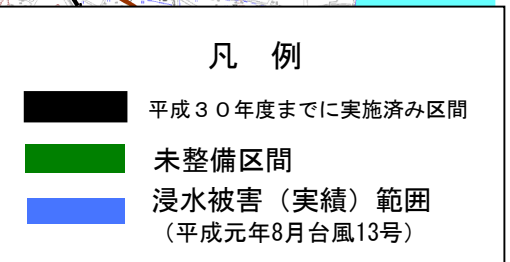
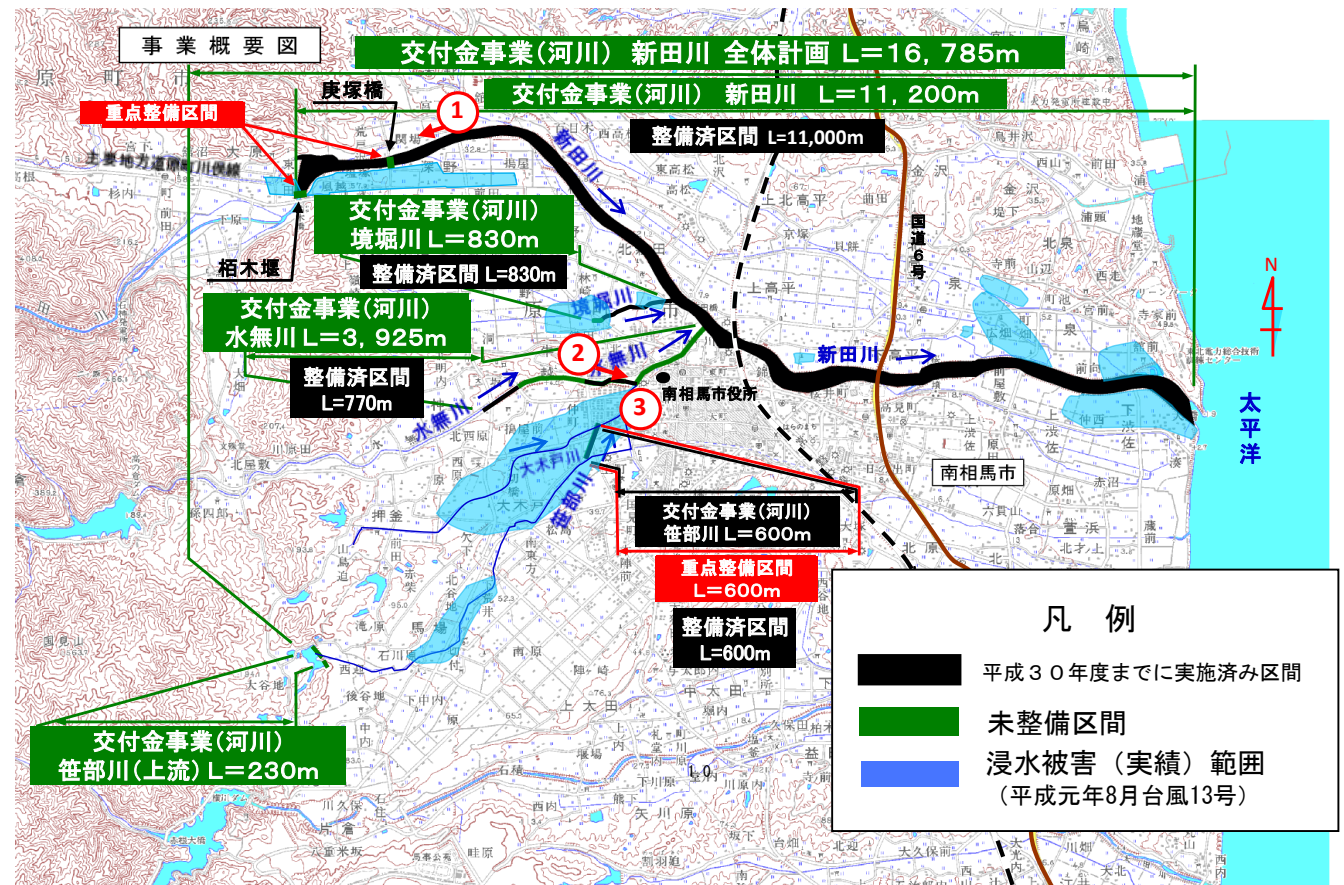
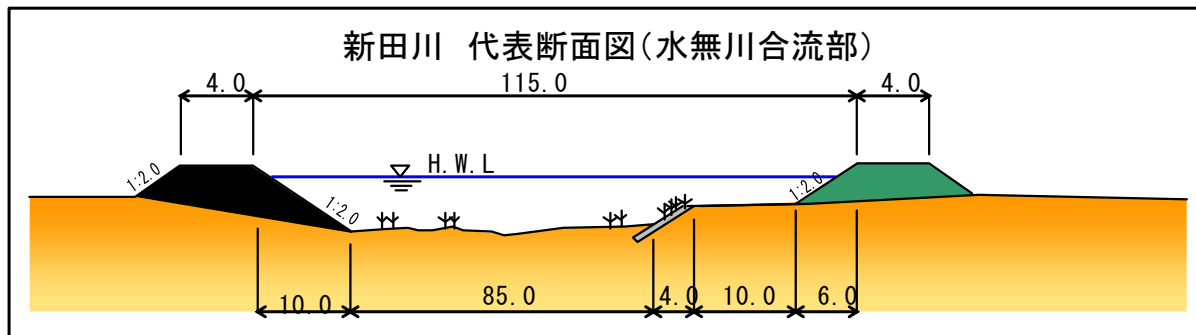
1 事業の概要

- 昭和23年の台風をはじめ、度重なる洪水により多大な浸水被害が発生しているため、河積の拡大を行い、沿川の人家等への浸水被害の軽減を図る。

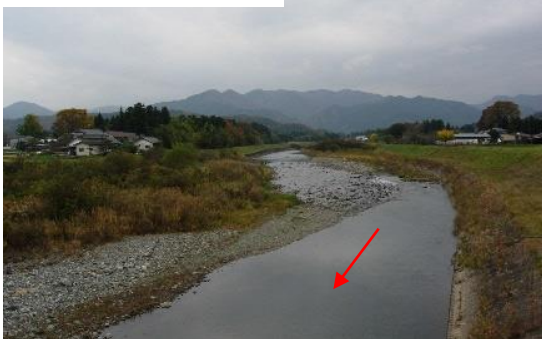
位置図



標準横断面図



① 新田川の改修状況 (木戸内橋より上流)



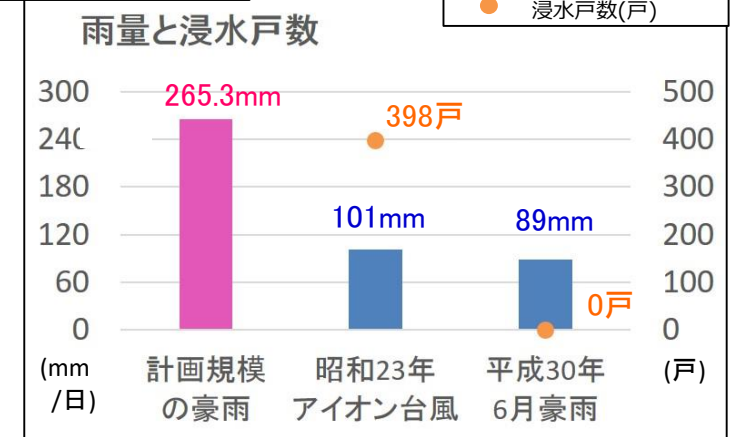
② 水無川の改修状況 (水道橋より下流)



③ H12.7.8 台風3号による被害状況 笹部川 (三島町付近)



過去の浸水実績



2 事業の進捗状況等

評価基準 A:特に問題なし、B:問題あるが解決の見込みあり、C:問題があり解決が難しい

(百万円)

全体事業費		事業 執行額	年度別執行額	
前回	今回 (前回差)		～30年度	31年度見込
9,700	9,700 (±0%)	7,323	7,323	142

(1)現状及び見通し [評価 A・B・C]

- 新田川本川は、栢の木堰、市道橋(以下、庚塚橋)及び支川水無川合流部を除き概成している。
- 支川水無川は、河床掘削等を除き概ね改修済みとなっている。
- 支川笹部川は、市街地の河川付替(放水路)を実施し、上流部を除き改修済みとなっている。
- 今後は、新田川本川の庚塚橋と栢の木堰の改築を進める。
- 河川改修延長16,785mのうち、平成30年度までに13,200mが改修済みである。

(2)期待される効果 [評価 A・B・C]

- 本事業により、河川断面狭小区間が解消されることで、沿川の浸水被害の軽減を図ることが出来る。

(3)事業を巡る社会経済情勢の現状・変化、地元住民等の意向 [評価 A・B・C]

- 地元住民は河川改修事業に対して協力的であり、台風や豪雨による浸水被害を防止するため、未整備区間の早期完成を強く望んでいる。

(4)評価指標の状況 [評価 A・B・C]

評価指標	採択時(S28)	前回(H26)	完成時(R10)	備考
河川改修延長 16,785m	0m (0%)	13,200m (78.6%)	16,785m (100%)	

【その他参考となる数値】

○過去の浸水実績

発生日	事由	浸水戸数 (戸)	浸水面積 (ha)	最大日雨量 (最大時間雨量)(mm)
昭和23年9月	アイオン台風	398	891.0	101 (*)
昭和28年9月	豪雨	67	99.2	64 (*)
昭和61年8月	台風10号	149	214.7	229 (23)
平成1年8月	台風13号	314	718.6	99 (29)
平成30年6月	豪雨	0	0	89 (9)

* (S23.9,S28.9)観測記録無し

(5)費用対効果の状況・要因の変化 [評価 A・B・C]

$$B/C = \frac{14,094.5 + 2.8}{416.8 + 36.5} = \frac{14,097.3}{453.3} = 31.10 \text{ (前回値 47.24)}$$

- [B]河川事業における総便益(氾濫防止便益+残存価値の合計)
- [C]河川事業に要する総費用(河川改修に要する事業費+河川維持管理に要する費用の合計)
- 評価基準年度の見直しにより、総費用が増加したことから、費用対効果が減少した。

(6)コスト削減の取組・代替案の検討状況 [評価 A・B・C]

【コスト削減の取組】

- 近隣他工事への発生土流用を積極的に進めている。
- 護岸裏込め採石等への再生骨材利用を積極的に進めている。

【代替案の検討状況】

- 一般的に貯留施設や放水路等の整備が考えられるが、流域内におけるダムの実業計画が中止となっていることから、現河川改修案が最適と考えられる。

3 評価

(1)県の対応方針案

(2)理由

事業継続

改修済区間においては浸水被害の軽減が図られており、未改修区間の浸水被害軽減に向け、今後も計画的に事業を進める必要がある。